

## 八代 恵里 氏（42歳）

### ＜経歴＞

本名は尾崎恵里です。職場では、若狭町に来た時の姓である八代で働いています。

このかみなか農楽舎（農村体験農業研修施設）に来る前は京都在住で、出身は大阪の天王寺の方です。

高校生まで大阪にいて、大学生の時に京都で1人暮らしをしました。4年間大学生活をする中で農業したいって思ったので、色々調べて、卒業と同時に農楽舎が見つかったので、そのまま農楽舎の研修生になったというのがきっかけですね。なので、新卒で農楽舎の研修生になったっていう感じですね。

### ＜移住した理由＞

移住した理由は、農業がしたいから。

埋まれ育ったのは、大阪のほんまに土すらないようなとこなんで、大学時代、農業したいと思っても、実家では無理やなと思ってました。農学部じゃなかつたし、もう自分で調べて、ひたすら探して、農業っていうキーワードでかかるところは全部行って、私こういうことしたいんすって言ってるうちに農楽舎にたどり着けたって感じです。

### ＜移住までの流れ＞

私は大学時代、教員になりたかったので、教員になるための勉強をしていましたが、それとは別に外で子どもたちとキャンプをするボランティアをしていました。その中で農業に触れ合って、子どもとこういうことをしたいと思うようになりました。だから、まずは自分が農業を学ぼうと思って動き出しました。

農業に関わるうちに、後継者不足などの色々な問題を耳にして、子どもが農業を経験することがないことが原因やと思い、自分がそれを子どもに伝える立場になって、子どものころから農業に親しみ持つてもらい、農業をする人を増やせばいいんちゃうって思いました。それを実践できる場所が農楽舎だったので、2年間研修しました。自分はどっちかというと農業をやるというよりも間に立つ人になりたくて、卒業と同時にそのまま職員として働くことにしました。旦那さんも農楽舎の卒業生で移住者です。旦那は自分で農業をやりながら、私は農楽舎で働くっていう感じです。

農業には、農家の嫁ということで手伝いながら、農楽舎でも手伝いつつ、主でもやりつつって感じ。私は農楽舎で、農業体験の受け入れから経理までなんでもしていて、今の代表が交代するっていうタイミングで、そのまま代表になりました。なので、自分がやりたいことを全部やらせてもらっています。

## <移住して思うこと>

農楽舎は、本当に受け入れ体制があるから、自分のやりたいことが全部表現できるし、農業が仕事というより暮らしと一体となっていて面白いです。若狭町では本当に地域の人によくしていただき、 口にする食べ物もこれは誰々の作った物と食卓で会話しながら食べられることが、最高の幸せが全部詰まっている暮らしかなって思います。地域活動を見ても、温度差はあるけれど、熱心な方によく出会うので面白いって思います。実家の親もけっこう地域活動に熱心やったから、活動するけど、地域全員がやるわけじゃなくて、やる人だけという感じ。ここだと地域ごとに組織があり、女性の会なりが集落単位であって、あれがやりたいそれがやりたいって。今日も20周年イベントやろうという電話があって、お、やろう。みたいな。なんかそんな感じで、自分のやりたいこと発信しとけば、何かに結びついて、いろんなことができるのがこの町だなって。

ここで暮らすこと自体が幸せ。 家から農楽舎に来るだけでも、景色が素敵で、季節の移り変わりとか、動植物とか、空とか、それだけで幸せやから大変なことがあっても、なんか幸せ、みたいな暮らしです。

## <地域とのつながりについて>

農楽舎は共同生活をしていて農楽舎を一軒の家と捉えています。農楽舎に入ったばかりの研修生でも近所の人の葬式に出たりとか、 祭りに出たり、草刈りに参加したりとか、地域活動に参加してもらいます。地域の一員になるためにそれが1番大事でそれが地域での暮らし方だよときちんと教える研修所なんですよ。

なので、私は研修1年目から集落の人の縁側でお茶していました。また、結婚して赤ちゃんが生まれた時も、みんながあれやこれやとわーって支援をしてくださいました。うちは、移住者同士だったけど、みんなそんな感じで迎えてくれました。そんなことがあったり、農楽舎自体がそういうことをしてくれる場所であったので、ずっと入っていました。

## <まちでの暮らしについて>

これまで地域で繋がった人と、やりたいことを、常にやり続けているので、これからもそれの延長ではないかと思っています。ただ、世の中が少し変わってきていることも感じます。若い世代の人や、新しく住み始めた人などで、やっぱり地域を大事にする思いの違いや、伝統文化の祭りに対しての喧嘩も見ているから、新しい人にも住みやすくあってほしいし、でもこれまで地域が守ってきたものも廃れてほしくないから、融合していただきたいなと思います。そこで、今年は、新規会員でイベントを企画して、歩み寄りを考えています。やめるだけではなく、でも、続けるだけでもなく、a+bはcじゃなくて、もっとこんな感じっていうのを模索しての状況です。なんか足すんじゃなくてみたいな、かけても引いても割ってもいいよねっ

ていう。そういうのを1人ではできないので、それが実現できそうな人って、今自分が色々なことをしているから出会えているので、これから変化が生まれるように仕向けていきたいですね。

#### ＜移住を検討されている方に一言＞

したかったら、した方が良い。やるならやった方がいいよって感じやね。多分、入る側も受け入れ側もお互い様でないといられないと思うんですよ。そこが前提で、移住者ばかりでもあかんし、受け入れる側もやっぱりお互い様。「来たんか」くらいじゃダメだし、お互い様の気持ちでないと融合していかないってすごく思います。来る人にもある程度、頑張りとか、ちょっとそういう気持ちも持ちつつ、恐縮せんでもええけどみたいな、そのお互い様の気持ち、入る側も、地元の人も、その気持ちが醸成されると絶対良くなるはずやって思ってるので、来る人やと、来たかったら来てもいいけど、そういう頑張りも必要かもねって言うことですね。でも、それができるまちにもしておきたいなって思います。

2024, 06, 24 第4回インタビュー